同志社大学

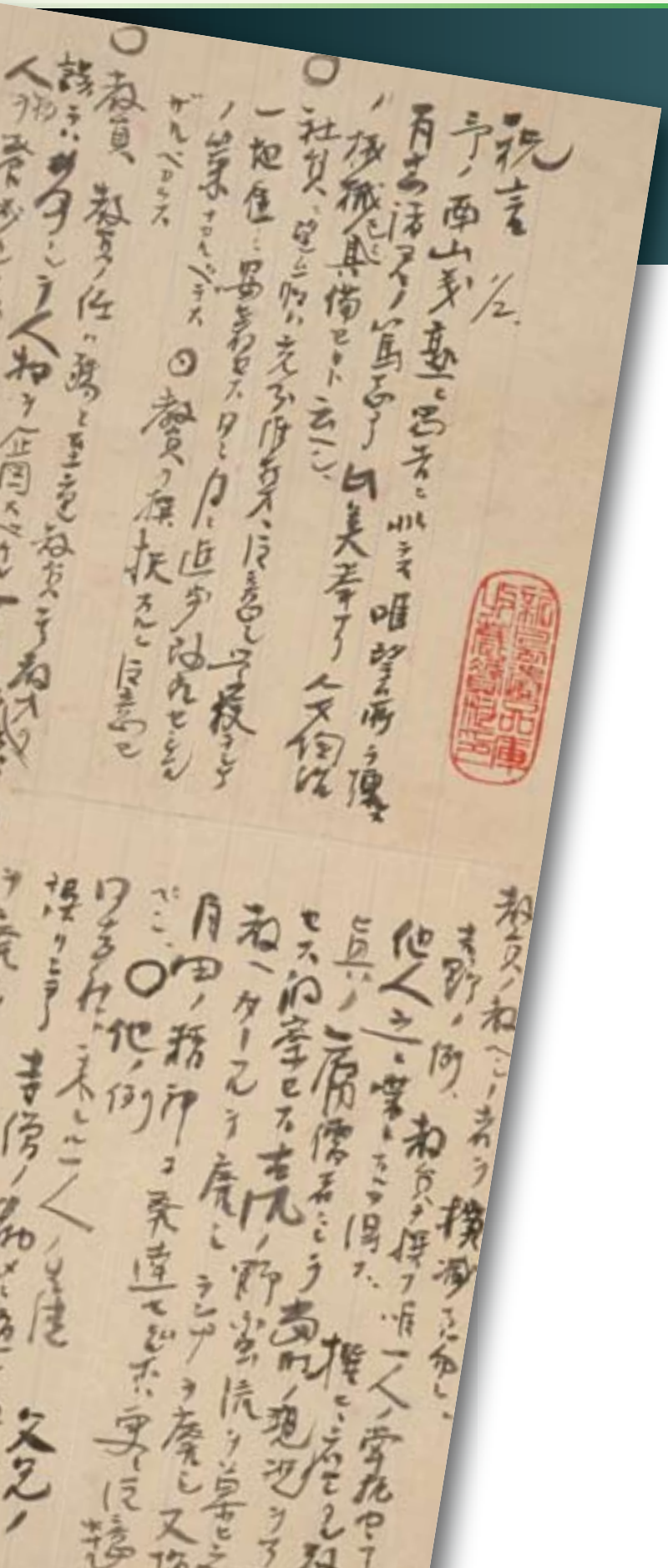
2006 Dec.
No.31

# 総合情報センター報

Library and Information Technology Center

CONTENTS

特集　同志社と京田辺 ……1
展示資料紹介
「京田辺と同志社と自由民権運動家」展 ……4
所蔵資料紹介
CAMERA WORKと
アルフレッド・スティーグリッツ ……6



## 特集　同志社と京田辺

同志社社史資料センター
小枝　弘和

2006（平成18）年4月、同志社大学京田辺キャンパスは開校20周年を迎えました。開校当時、芽吹いていた木々は今や生い茂る樹木となり、大学のキャンパスとしてふさわしい雰囲気を醸し出しています。この20年間、京田辺キャンパスの発展には目覚しいものがありました。1994（平成6）年には今出川キャンパスから工学部・工学研究科、理工学研究所が全面移転し、本年11月には新たに学研都市キャンパスが開校しました。2年後には生命医科学部及びスポーツ健康科学部が開設され、今後一層の発展が予想されます。

では、なぜ同志社は京田辺に土地を購入し、新しいキャンパスを開校したのか、と不思議に思う方もいるでしょう。そもそも、戦後、大衆化が進む大学において、より多くの学生を受け入れるためには、そのための土地を確保することが必要でした。とりわけ、高度経済成長下の急速な経済発展のもとでは、大学進学者の急増や、それに伴う大学のマスプロ化に対応できる校地確保は性急の問題でした。では、なぜ京田辺なのか。「偶然」と言ってしまえばそれまでですが、その「偶然」を誘発させるだけの関係が同志社と京田辺の間にはあったと言ってもよいかもしれません。

京田辺キャンパスの前史を遡りますと、同志社が綴喜郡田辺町（現京田辺市）での土地購入を決定したのは1965（昭和40）年8月の理事会でのことです。そこから開校まで21年、そして、今日更に20年が経ち、京田辺キャンパスの歴史はこの理事会決定の地点を持って考えますと、現在既に41年が過ぎたことになります。

南山義塾跡碑(H195×W32×D27cm)

新島　襄像

小室信介像(原撫松画)

沢辺正修像(原撫松画)

同志社と京田辺の最初の接点は、まださらに歴史を遡ります。今から124年前、南山(なんざん)義塾が、現在「南山義塾跡碑」のある場所(2006年初頭まで同志社女子大学所有)で1882(明治15)年4月30日に開校式を挙行しました。この開校式列席者の中に新島襄がいました。(田辺町近代誌編さん委員会編『田辺町近代誌』1987年pp.630-631)この式典で新島が話した祝辞の草稿が現在同志社社史資料センターに所蔵されています。(遺品庫番号上0713)このことは比較的よく知られていることでしょう。

南山義塾の歴史をもう少し見てみますと、この塾は1877(明治10)年、棚倉孫(たなくらひこ)神社で開校した盍簪(こうしん)家塾が発展したものです。家塾は小学校卒業者を対象に教育を展開していましたが、よりよい教育を求める生徒たちの声に応えて、西川義延、田宮勇、喜多川孝経、伊東熊夫ら有志が株券を販売して資金を集め、伊東を社長に、喜多川を副社長に据えて学校を開設します。(『田辺町近代誌』p.629)これが南山義塾です。ちなみに、1888(明治21)年3月29日、新島は伊東、喜多川を含めた4人に明治専門学校(同志社大学の前に使われていた名称)設立の募金募集のために集会を開いて話し合ってほしいとの書簡を送っています。(『新島襄全集』第8巻p.435)なかでも、伊東は1884(明治17)年に同志社大学設立の発起人として京都の名士とともに名前を連ねています。(「同志社大学記事」『新島襄全集』第1巻p.190)伊東は同志社の有力な賛助者でした。

伊東熊夫について今ひとつ興味深いことがあります。本年5月、同志社は伊東の曾孫にあたる大石(旧姓:伊東)庸爾(ようじ)氏(昭和28年度経済卒)から土地寄付の申し入れを受けました。(事務資料「京田辺校地隣接地ご寄贈申し入れについて」2006年6月14日付)縁ある同志社へ寄付したいという大石氏の強い希望からの申出ということでした。同志社と京田辺の歴史的な関係を示してくれる好例ではないでしょうか。

さて、再び南山義塾に戻ります。この塾は、自由民権運動の流れを受けて開設された学校ですが、1875(明治8年)年7月1日に丹後で既に開校していた天橋(てんきょう)義塾の影響を大きく受けています。同塾社長の沢辺正修(せいしゅう)、そして沢辺が同塾に招いた小室信介は、いずれも京都宮津の出身で、田辺の地に自由民権運動の影響を与えました。沢辺は、先の盍簪家塾の前に棚倉孫神社で開校した田辺小学校の教員を、小室は田辺小学校と同じく綴喜郡にある井手小学校の教員を務めたことがあります。(竹内力雄「南山義塾と新島襄」『同志社時報』第51号1974年p.66)そのときのことでしょうか、沢辺や小室は、伊東をはじめとする後の南山義塾設立のメンバーに深く影響を与えています。(鈴木重治「南山義塾遺跡の周辺」『同志社時報』第90号1990年pp.144～145)ちなみに、現在同志社には沢辺と小室を紀念する文庫「小室・沢辺紀念文庫」があります。この文庫は1891(明治24)年に設けられた文庫で、沢辺と小室の旧友たちが資金を集め、5000冊余りもの書籍を購入し、同志社に寄付して開設されました。同志社としては初めての文庫であり、以前は旧書籍館(現・有終館)の2階に収められていたそうです。詳しくは同志社大学図書館ホームページのデジタルアーカイヴで見ることができます。(http://www.doshisha.ac.jp/library/collection/)

また、その他にも同志社と京田辺の接点があります。1927(昭和2)年12月9日、中島重法学部教授が中心となって、学内で同志社労働者ミッションを設立します。このミッションは、その目的を「すべての労働者(都市、農村、漁村、鉱山等の区別を問わず)にイエスの福音を宣伝し、神の御旨にかなえる新社会の実現を期す」

新島　襄　自筆　祝言（同志社社史資料センター所蔵）

祝言　1/2

予の南山義塾に忠告〔する〕にあらず。唯望む所を陳す。有志諸君の篤志よりこの美挙あり。人才陶冶の機械、已に具備せりと云えし。

○社員に望む所は、十分維持方〔法〕に注意し、学校をして一地位に安着せず、日々月々に進歩改良せしむるの策なかるべからず。教員を撰択するに注意せざるべからず。

○教員　教員の任は殊に至重。教員その教方〔法〕を誤らば、如何して人物を企図すべけん。今の教師多くは、人物を養成するをもって、その目的とせず。月給の多少によりその所を移し、月給を貪り、いささか己の淫慾を逞する等の輩も陸続輩出するあれば、如何して生徒の品行を端正ならしめ、有用の人物を陶冶し得べけんや。○教員諸君よ、教員の心得と為すべき所は、身、自ら生徒の卒先〔率先〕者となり、生徒の標準となり、生徒の志操を高尚ならしめ、又生徒の気質に随い、幾分か教える所を異にし、生徒をして智進み、徳高からしめば、教員の任は大に至りせりと云べきなり○体育○知育○心育（多くを貪らしめず、よくよく味わしむべし。ビーフステッキ〔ビーフステーキ〕）

○父兄　社員の尽力せるを徒〔いたずらの〕為に属せしむるなかれ。
教員の教えしの者を撲滅するなかれ。
吉野の例　教員を撰ぶ唯一人の掌握内にあり。他人、之に喋々〔ちょうちょう〕するを得ず。撰びに応じたる教員は、真の腐儒者にして、当時の現況を了知せず、洞察せず、古風の野蛮流を慕い、之を教え、ターフル〔テーブル〕を廃し、ランプを廃し、又随て自由の精神を発達せしむる等は更に注意せさるべし。○他の例　同志社に来れる一人の生徒、父兄の誤りにより寺僧の勧めに随い、遂に学問を廃したり

○生徒の心得
如斯〔かくのごとき〕、社員方、教員、父兄方、業の成ることを望まるるに、不勉強にして正に成業せざれば、是れ何れの過ちぞ。
｛藪の中に満足して居れと云わば、不都合千万。
｛人、鶴となり飛揚〔上〕らんとするをあぶない。矢張〔やはり〕我と同様。

○教員たる者、己が雀の如き人物であり、生徒の中に鶴の如き。
○教員の職は太政官にまさる。
○卑賤より人物生ず。○（リンコルン〔リンカーン〕、ガーフヒールド〔ガーフィールド〕）京都の知事。
○田舎の人に望を属す。
○イートンの話し。
○真理より自由の生ずるのみ。
○人民の友となれ。

（「同志社労働者ミッション設立宣言書」同志社社史資料センター所蔵）としており、キリスト教精神を社会に実現する具体的な方法を志向する組織として発足します。（同志社教会史編集委員会『同志社教会1901～1945』同朋舎2001年p.341）この組織が設立される背景には、1925（大正14）年、1927（昭和2）年の賀川豊彦の学内伝道や、1927年の同志社教会牧師の堀貞一によるリヴァイヴァル（信仰復興）などがあり、学内のキリスト教的雰囲気が高まっていました。（『同志社教会』p.341）ミッションに所属した学生たちは、卒業後、近畿圏の農村部へ伝道に行くのですが、興味深いことに、岩井文男（同志社大学法学部卒、新島学園中学校・高等学校長、新島学園女子短期大学初代学長）が綴喜郡草内村へ、その後、手代木文（同志社大学神学部卒）が綴喜郡田辺町へと、（高道基編『敬虔なるリベラリスト　岩井文男の思想と生涯』新教出版1984年p.96）現在の京田辺キャンパスの周辺に派遣されました。岩井の評伝を見ると、彼は妻牧江と共に綴喜郡草内村へ入り、地元の農民組合に加わり、その組合員に聖書の講義をしたり、日曜学校では子どもたちを教えたりしていました。（同前p.141）同志社と京田辺の関係を物語る歴史の一幕といえるのではないでしょうか。

このように同志社と京田辺には何かと縁があります。昨年からは同志社大学・京田辺市共催の「京田辺祭」が開催され、現在も新しい関係が構築されつつあります。今後も同志社と京田辺の関係は持続的発展的に構築されていくのではないでしょうか。

同志社労働者ミッション設立宣言書（同志社社史資料センター所蔵）

展示資料紹介

# 「京田辺と同志社と自由民権運動家」展

## ―小室･沢辺紀念文庫、植木文庫―

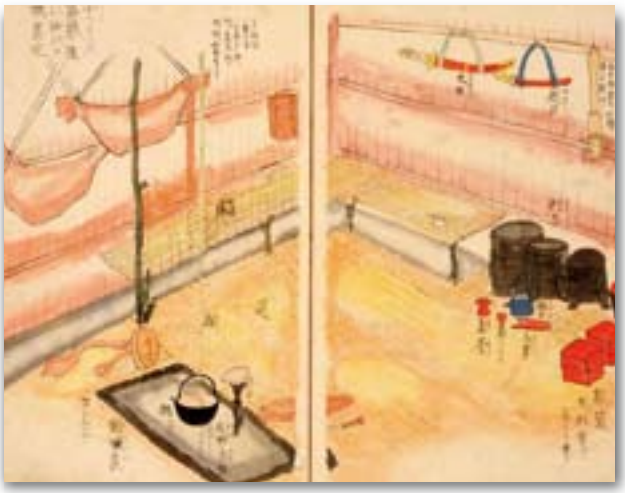
期　間　2006年11月1日～12月27日
場　所　同志社大学総合情報センター ラーネッド記念図書館２階展示コーナー

ラーネッド記念図書館２階展示コーナー

南山義塾跡地空撮（1984年頃撮影）

同志社京田辺校地の南東に位置する同志社住宅地と普賢寺川を挟んだ南側に「南山（なんざん）義塾跡」碑が建っております。この辺り一帯に、明治前期に宮津にあった「天橋（てんきょう）義塾」とともに、国会開設、憲法制定、地方自治の実現などを要求して闘った自由民権運動の拠点となった「南山義塾」がありました。この「南山義塾」創立に関わった普賢寺村の伊東熊夫･田宮勇、田辺村の西川義延･吉川磯右衛門･喜多川孝経･西村篤、大住村の樺井保親･吉田喜内は山城地域を中心に自由民権運動を推し進めた郷土が誇る歴史上の名士たちです。

本学校祖新島襄は「南山義塾」開校にあたって祝辞を述べています。（「**祝辞草稿**」の実物も展示しています。）この時、新島はこの地に105年後の1986年に同志社京田辺校地ができると予測したでしょうか。また北の自由民権運動の拠点であった宮津の「天橋義塾」の中心メンバーとして活躍した沢辺正修と小室信介は田辺小学校、井手小学校と山城地域の教員をしたことがあり、この地の自由民権運動家に大きな影響を与えたと言われています。この沢辺正修と小室信介を紀念する、「**小室･沢辺紀念文庫**」が今出川図書館貴重室に保管されています。



小室･沢辺紀念文庫「海表異聞」

小室･沢辺紀念文庫「海表異聞」

小室・沢辺紀念文庫「上京日録」

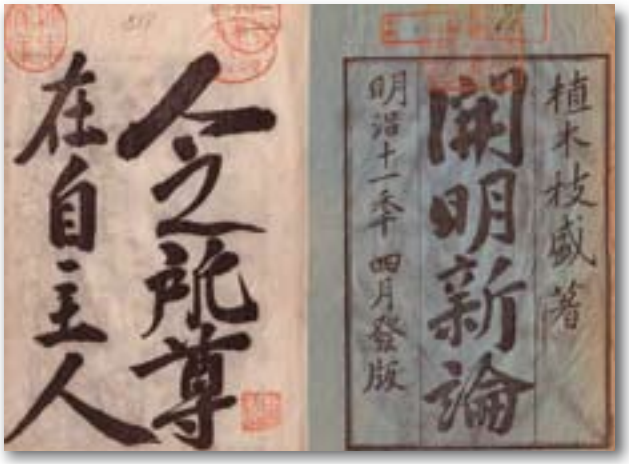
小室・沢辺紀念文庫「翠軒先生雑録」

一方、土佐の地は山内一豊や坂本竜馬のほかにも、日本の自由民権運動をリードした板垣退助、中江兆民、植木枝盛、片岡健吉、後藤象二郎などを輩出したことでも有名です。新島襄は板垣退助・植木枝盛らの民権派のリーダーたちとも接触がありました。「国会開設建白書」を提出した民権運動家の片岡健吉は、衆議院議長も務め、同志社の５代目総長も務めました。そしてこの片岡健吉の仲介などもあり、民権運動の理論家である植木枝盛の蔵書も本学に寄贈され、「**植木文庫**」として今出川図書館貴重室に保管されています。

京田辺と同志社は「自由民権運動」を通じて結ばれています。「南山義塾」はなくなりましたが、この地に1986年同志社大学京田辺校地が開校し、1994年には工学部・工学研究科、理工学研究所が移転されました。2005年には文化情報学部ができ、そして2008年には「生命医科学部」「スポーツ健康科学部」の２学部が設置されます。今回、ラーネッド記念図書館では、京田辺校地開校20周年を記念し、同志社と京田辺市の更なる発展を願って、同志社ゆかりの民権運動家たちの蔵書の一部を紹介する展示を企画しました。なおこれらの資料はWebからも参照できます。

**http://www.doshisha.ac.jp/library/collection/**

植木文庫「立志社設立記要」




植木文庫「開明新論」

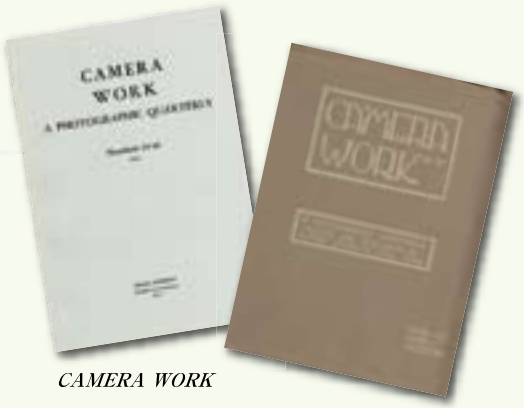
植木文庫「西洋教草」

植木文庫「民選議院論綱」

所蔵資料紹介

# *CAMERA WORK*と アルフレッド・スティーグリッツ

所蔵：ラーネッド記念図書館
請求記号：P740‖C
＊No.49-50オリジナルの閲覧を希望される場合は
カウンターで請求してください
No.1-50リプリントは書庫に配架しています



*CAMERA WORK*

米国ではピクトリアル・フォトグラフィーへの関心に応える独立系写真誌出版の機が熟し、写真芸術発展の理論的な帰結として『カメラ・ワーク』が登場した。
個人表現の一手段としての写真を信奉する人々が増加し続けているが、季刊が予定されるこの写真誌はそういった人々にとって魅力的なものとなるだろう。そしてまた、その可能性に気づいていない多くの人々の気持ちを変えるだろう。（後略）
編集長　Alfred Stieglitz
*CAMERA WORK* No.1（1903）
（横江文憲「アルフレッド・スティーグリッツ－写真家としての軌跡」『アルフレッド・スティーグリッツとその仲間たち』東京都写真美術館編 1997）

今でこそ、芸術家としての写真家は数多く、世の中にも認められていますが、1820～30年代に写真が発明されてからしばらくは、記録のための一技術にすぎませんでした。その写真を芸術的表現の一手段として、様々な試みがされた雑誌 *CAMERA WORK* とその編集長アルフレッド・スティーグリッツ（Alfred Stieglitz , 1864-1946）について、ご紹介したいと思います。

## 写真家アルフレッド・スティーグリッツ

1864年、スティーグリッツはアメリカに移住してきたユダヤ人の家庭に生まれました。少年時代から教育的にも恵まれていた彼は、1882年にベルリンへ留学し機械工学を専攻します。しかしながら、店のショーウィンドーにあった箱カメラに魅せられて以来、専攻も写真化学へと変えて、数多くの写真コンテストで入賞するほど写真芸術にのめりこんでいきました。

スティーグリッツが学んだヨーロッパでは、絵画的な写真“ピクトリアル・フォトグラフィー”がもてはやされていました。当時の写真はまだ趣味の域を脱することができなかったため、芸術に近づけるべく、意図的なポーズや構図で、ぼかしなどの技法をこらした絵画のような写真が受け入れられていたのです。

スティーグリッツは、自らのヨーロッパでの体験から、ピクトリアル・フォトグラフィーをアメリカに紹介した人物といえますが、1890年にニューヨークへ戻ってから収めた写真には、すでに新たな写真表現の萌芽が感じられます。

'The Terminal'（1892）　*CAMERA WORK* No.36（1911）
厳寒のニューヨーク、馬の体から白い湯気が立ち上る、終着駅の一コマ

まるで馬の息遣いまで聞こえてきそうなこの写真は、当時、盗み撮り用探偵カメラと蔑まれていたハンド・カメラで撮影されたスナップ・ショットでした。そこには、何の技巧もなく、ただ写真を写真として“ストレイト”に生かそうとする表現意欲が感じられます。

そして1902年、スティーグリッツは、伝統的な絵画的写真からの脱却を図りつつ、写真独自の新しい表現を目指す写真家集団：フォト・セセッション（写真分離派）を結成すると共に、その機関誌として *CAMERA WORK* を創刊したのでした。

## プロデューサーとしてのスティーグリッツ

*CAMERA WORK* は、1903年から1917年までの間、総合芸術雑誌として50号刊行されました。この記念すべき雑誌は、はじめこそ写真誌としてスタートを切りましたが、やがて絵画の特集も掲載していきます。それは、1905年にスティーグリッツにより開設されたザ・リトル・ギャラリーズ・オブ・ザ・フォト・

セセッション(のち、その番地から通称ギャラリー291)も同じで、写真と共に絵画や彫刻を展示する試みがなされました。これらは、すでに芸術として認められていた絵画と同等に扱うことで、写真を芸術の一領域として引き立てようとしたためなのです。その一方で、ギャラリー291は、若い新人芸術家に作品を展示する機会を与えて育てると共に、活発な意見を交わす場を提供しました。さらに、ヨーロッパの前衛的な芸術も果敢に紹介しており、アメリカの人々がはじめてピカソやマティス、セザンヌらの作品に触れたのはこの画廊においてでした。スティーグリッツは、画廊主でありながらパトロンでも批評家でもあり、プロデューサーとしても、写真をはじめアメリカ芸術の立役者となったのでした。

## ニューヨークという舞台

当時のニューヨークは目覚しい発展を遂げていました。1800年代後半、ニューヨークへはヨーロッパをはじめ各地から移民が流れ込み、1830年には20万人だった人口も、1900年には344万人にも達していました。

'The Steerage' (1907) *CAMERA WORK* No.36(1911)
欧米を結ぶ船内－光と影の中に移民たちが写し出される

また、1882年には電気が一般に使われはじめ、翌年にはブルックリン橋が川を隔てた街を結び、1896年には初の試作自動車がフォードにより作られました。フォト・セセッションが結成された1902年には、ニューヨーク最初のスカイスクレイパー(摩天楼)であるフラットアイアン・ビルが建てられ、その2年後には地下鉄が開通するなど、都市自体もめくるめく変化を経ていったのです。

こうした変化を、スティーグリッツはどのように眺めていたのでしょうか？ 彼は、変わりゆく都市の光景を、そこにうごめく様々な感情も含めて 'The City of Ambition' と題して写真に表現しています。

'The City of Ambition' (1910) *CAMERA WORK* No.36(1911)
変わりゆくニューヨークの象徴ともいうべき摩天楼

後に彼は、初期の作品を振り返りながら、批評家のハミルトン・イースター・フィールドに宛てこう記しています。

> 小生のニューヨークは移ろいゆくニューヨークなのです－古いものが次第に新しいものに移ろってゆくときの、と言えばよいでしょうか。貴君が御覧になっておられない小生の連作－1892年から1915年までのものですが－は(摩天楼の)「谷間(キャニオン)」を撮ったものではなく、ニューヨークを心から愛する人間の気持を伝える魂(スピリット)を撮ったのです－つまりは都市の外見なぞではなく－その奥にある価値と意義。―そのなかに潜む普遍な世界である、というわけです。
>
> 16 Nov. 1920,Stieglitz Collection, Beinecke Library, Yale University(Alan Trachtenberg著 生井英考ほか訳『アメリカ写真を読む』白水社 1996)

様々な人が集い、すさまじい勢いで変化していく都市ニューヨークだからこそ、スティーグリッツは多くを感じ、表現し、世の中に訴えかけていったのかもしれません。

## *CAMERA WORK* とその後

ただ、スティーグリッツの取り上げたヨーロッパのモダン・アートは時にあまりに先鋭的すぎたため、*CAMERA WORK* の購読者を減少させることもありました。また、第一次世界大戦も影響し、一時は1000部・650人を超える購読者のあった *CAMERA WORK* も、最終号であるNo.49-50（合併号）の折には500部・36人となっていました（後にスティーグリッツは、彼になじみの機関に *CAMERA WORK* が揃いで所蔵されていることを確認し、残部1000部を焼いてしまったとされています）。本学で所蔵している *CAMERA WORK* は、この数少ないNo.49-50のオリジナルと1-50号のリプリントです。

*CAMERA WORK* の最終号では次世代を担う若き写真家ポール・ストランド(Paul Strand 1890-1976)の特集が組まれ、スティーグリッツが求めてきた写真の美学が"ストレイト・フォトグラフィー"として見出されています。

'The White Fence'（1916） *CAMERA WORK* No.49-50（1917）
前景の白いフェンスと遠景の納屋のコントラストが印象的

巻末ではストランドを「過去の歴史に新たな一歩を刻む写真家」として賛辞しており、彼のダイレクトさを表現するために、焼付に和紙の使用をやめるほどでした。

（前略）その作品は粗暴なほどに直截である。いかなるごまかしも詐術も、いかなる『イズム』も、写真家自身を含めて無知な大衆をけむにまくようないかなる試みもなされていない。これらの写真はダイレクトに＜現代＞を表わしているのである。

*CAMERA WORK* No.49-50（1917）
（笠原美智子「ポール・ストランド」『記録される都市と時代』洋泉社 1994）

*CAMERA WORK* は1917年に廃刊となり、ギャラリー291も閉鎖されましたが、スティーグリッツは引き続き意欲的な活動を続け『ジ・インティメイト・ギャラリー』（1925-1929）や『アン・アメリカン・プレイス』（1929-1950）を運営すると共に、ストレイト・フォトグラフィーを提唱する写真家として作品を残していきました。

こうした彼の一連の運動は、アメリカ芸術に大きな影響をおよぼしたようです。1930年代には、メトロポリタン美術館に写真の永久保存部門が設けられ、ニューヨーク近代美術館では写真発明100周年を記念するかのような写真展が開催されており、スティーグリッツの働きかけが世の中に受け入れられていった一端を物語っています。

## DOORSサプリ

### *CAMERA WORK*／写真へのアプローチ －参考文献一覧に代えて－

図書館では、さまざまな資料や情報を提供しています。ここでは、所蔵資料紹介に取り上げた *CAMERA WORK* や写真を例に、図書館でできることを簡単にご紹介します。

#### データベースを検索すると

| こんなとき… | データベース | カテゴリ |
|---|---|---|
| 写真全般について概要を知るなら | JapanKnowledge | 【辞典・事典】 |
| スティーグリッツはどんな人だったのだろう？ | Biography Resource Center | 【企業・人物】 |
| *CAMERA WORK* やスティーグリッツ、写真に関する論文が読みたい！ | 和雑誌ならMAGAZINEPLUS<br>例えばこんな論文：光田由里・野島康三「From Exhibition ＜芸術写真＞の周辺で」『美術手帖』749号（1997） | 【雑誌記事・論文（索引）】 |
| | 洋雑誌ならFirstSearchのArticleFirst | 【雑誌記事・論文（索引）】 |
| *CAMERA WORK* 創刊当時のNewYorkの反応は？ | The New York Times | 【新聞記事】 |

#### 図書館所蔵資料をのぞいてみると

【今】は今出川図書館、【ラ】はラーネッド記念図書館で所蔵

| こんなとき… | 書誌事項 | 【今】 | 【ラ】 | 請求番号 |
|---|---|---|---|---|
| 写真の歴史を紐解く | Naomi Rosenblum著 大日方欣一ほか訳『写真の歴史』（美術出版社 1998） | 閉架 | 開架 | 740.2 ‖ R460-1F |
| アメリカにおける写真を知る | Alan Trachtenberg著 生井英考ほか訳『アメリカ写真を読む』（白水社 1996） | 開架 | ― | 740.25 ‖ T117-1F |
| アメリカ芸術の中の写真をみる | 藤枝晃雄編『アメリカの芸術』（弘文堂 1992） | 開架 | | 702.5 ‖ F594 |
| 展覧会図録もあります！ | 東京都写真美術館編『アルフレッド・スティーグリッツとその仲間たち』（朝日新聞社 1997） | 閉架 | ― | 748 ‖ S9100 |
| 洋書に挑戦 | Andrew Roth , *The book of 101 books* (PPP Editions 2001) | 開架 | 洋書 | 740.2 ‖ R9101 |
| ビデオもあります！（当時のアメリカを映像でみる） | 新川健三郎監修『世界の大国への道（映像が語る20世紀1）』（日本ビクター 1997） | マルチ開架 | | V253.07 ‖ S364 ‖ 1 |

## 本学の情報教育環境が新しくかわりました。

2006年夏期の情報システムリプレースにより、施設および提供サービスが新しくなりました。
詳しくは「Do! SUPPLEMENT」をご覧下さい。

同志社大学 総合情報センター報 No.31 2006年12月8日発行
編集・発行：同志社大学総合情報センター 〒602-8580 京都市上京区今出川通烏丸東入
Tel：075-251-3960 Email：ji-gakjo@mail.doshisha.ac.jp
http://www.doshisha.ac.jp/library/